



心に関する校長講話 6/17

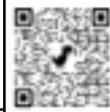
一燈照隅

その立場立場でなく、これはならぬ人になる

発行 平戸市立平戸小学校 文責 校長 永田健治
児童数 347名 教職員数 36名
創立150周年



発行：平戸市立平戸小学校 〒859-5121 平戸市岩の上町1509番地 TEL：0950-22-9230
E-mail：hirado-es@hirado.ed.jp ホームページ：「平戸市立平戸小学校」で検索



第19回平戸市少年の主張大会

6年2組丸山ひかりさん



堂々と保育士になる夢を語るひかりさん

勇氣のことば

6月9日(日)平戸文化センターで平戸市少年の主張大会が開催され、市内小中学校から小学生15名、中学生8名が代表者として発表しました。本校代表の丸山ひかりさんの原稿を紹介します。

【勇氣のことば】
「頑張ったね。」
その一言で、五歳のとき、私の夢は決まりました。
私の将来の夢は、保育士になることです。保育士になって、小さい子供たちに優しく接し、勇氣を与えられる存在になりたいです。私には、あこがれて

いる人が二人います。一人目は、私が5歳の時の担当の先生です。保育園で縄跳び大会があったときの出来事です。私は、70回くらいしか跳ぶことができず、悲しい思いでいっぱいでした。周りの友達は百回以上跳んでいて、大きな差を感じた私は、泣き出したくらい、とても落ち込んでいました。そんな時に、先生が、「頑張ったね。」と声をかけてくれました。たった、たった一言のはげましかつたけれど、私の心は嬉しさと満たされました。もっと跳べるように頑張ろうと前向きな気持ちになりました。この経験から、私も悲しんだり落ち込んだりしている子供たちに、はげましの言葉をかけてあげられる保育士になりたい



と思うようになりまし
た。
二人目は、保育士である母です。私の母は、明るくてとても優しいです。私は低学年のころ、学童に通っていました。そのときに、母が仕事をしているクラスに行ったことがありません。母の姿は、とてもかっこよく、子供たちにも言葉かけながら上手に接する母を見て、「笑顔で子供たちと接して、すごいな。」と思いました。母も子供たちも笑顔で楽しそうにしている様子が、胸に残りました。「私もお母さんのような優しい保育士になりたい」と強く思い、保育士になろうという夢が確実なものとなりました。母は、家で仕事のことを話す時いつも楽しそうにしています。大変なこともたくさんあるはずですが、それ以上に子供と関わることはとても楽しく、やりがいがあることなのだと思えます。

最近、ニュースでは、保育園児が食べ物などに詰まらせたり、寝ているときにうつぶせになってしまったり、亡くなるという出来事が報道されるのを目にします。そのようなニュースを見てみると、かわいそうだなと心が痛くなります。それと同時に、保育士という仕事は、楽しいだけでなく、小さな子供たちの大切な命を預かっているとても責任のある仕事なのだと実感しました。しかし、そんな大変な仕事であるとわかっていても私の「保育士になりたい」という気持ちは変わりません。

保育士になるために、これから何事にも責任をもって取り組んだり、周りの人に優しく接したりしていきます。私は今、6年生として学校全体を引っ張っていく立場にあります。そのため、委員会活動ではみんなのためにできることを考えて、忘れずに取り組んでいきます。私は保健委員会、昼休みに石けん配りの仕事をしています。自分が仕事をしなければ使う人が困ってしまうため、これからも責任をもって続けていきます。また、昼休みに進んで1年生に声をかけて、一緒に遊んだり、お世話をしたりしています。一緒に過ごしていると、1年生が笑顔でたくさん話しかけてくれます。私はそのとき、とても嬉しい気持ちになります。周りの人が笑顔になれるように、優しい言葉をかけながら接していきます。そして、優しく、たくさんの子供たちに勇氣を与えられる保育士に必ずなります。あの時の私に勇氣をくれた言葉を、今度は私がたくさんの人に伝えていきます。

「頑張ったね。」

私たち大人が子供たちの「憧れ」になりましょう。